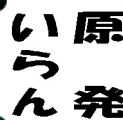


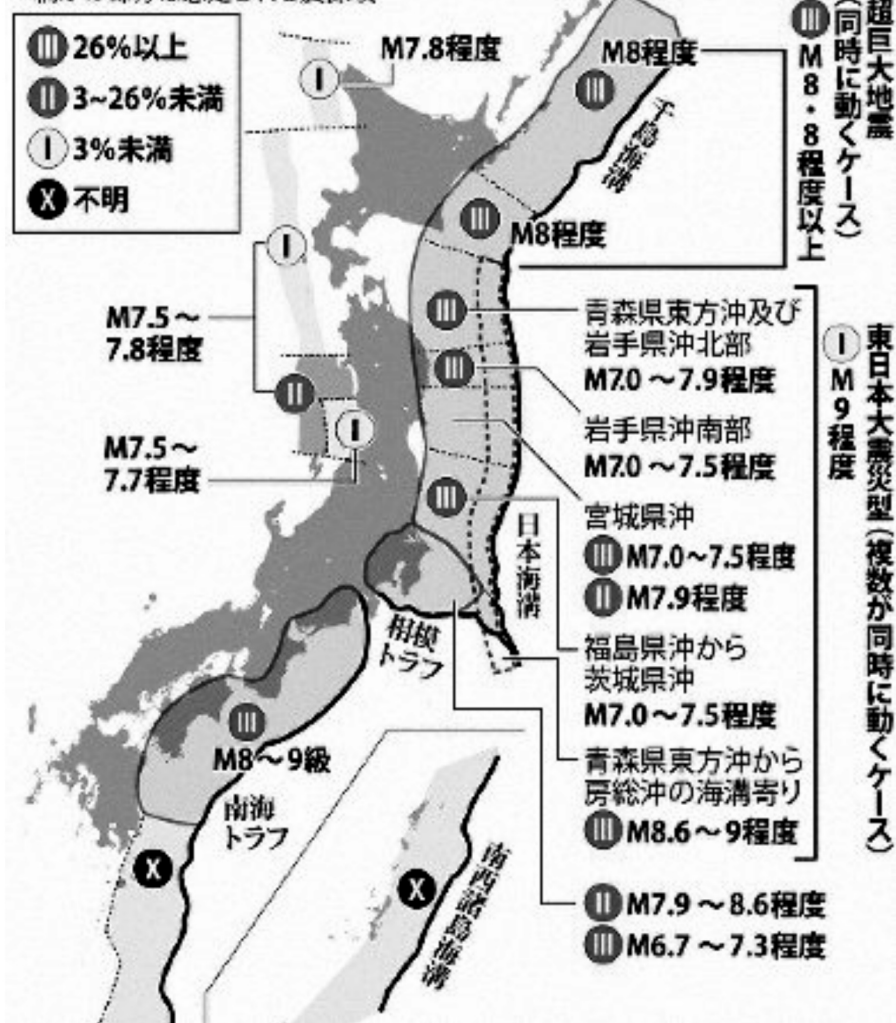
二月二六日、政府の地震調査委員会は、青森県東方沖から房総沖の日本海溝で将来起こる地震の発生確率を見直し、公表しました。大きな被害をもたらすM8級の地震が全域で高い確率となっていて、調査委は、東日本大震災があつたからといって、もう大地震は来ないと考えないようにと警戒を呼びかけました。



即刻原発を廃止せよ！

海溝型地震のランク(30年以内の発生確率)

※地震調査委員会の資料から作成。
網かけ部分は想定される震源域



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

生確率を四段階に分けました。

日本海溝の確率見直しは、大震災を受けて暫定的に行った二〇一一年以来で、計算手法や基準となる過去の地震を変更したそうです。

前頁の図が地震調査委員会の資料をもとに毎日新聞が作成したものです。今後三〇年以内の確率が二六%以上を「Ⅲ」（高い）、三〇二六%未満を「Ⅱ」（やや高い）、三〇%未満を「Ⅰ」に分類。過去のデータが少なく、評価が困難な領域が「Ⅳ」です。

次に下の原子力発電所マップを見てください。

原発は日本では海沿いに作られているので、見事にM8、M8.9の地域に重なっています。しかも確率は二六%以上のⅢのランクです。政府機関

である地震調査委員会が、このように警告を発しているのですから、政府は一日も早く原発を廃炉にすべきです。

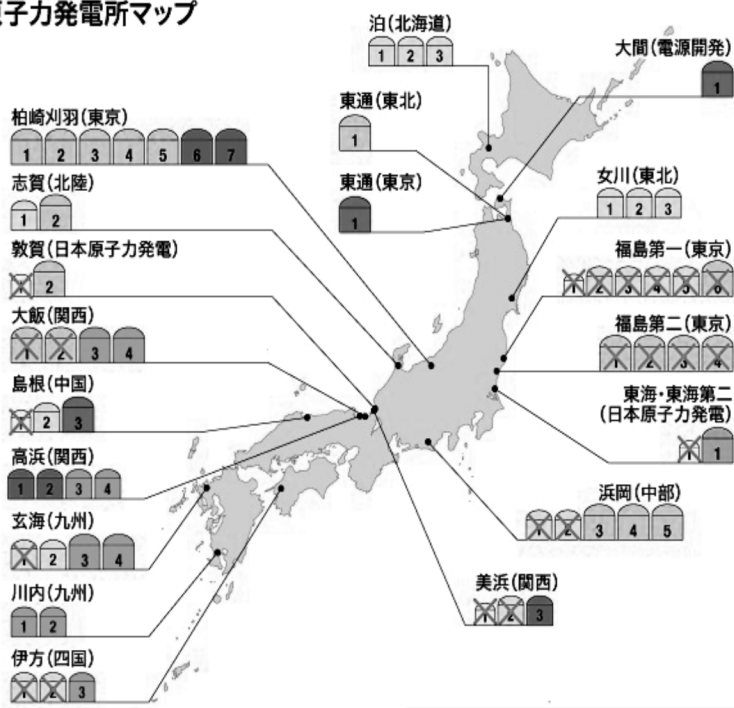
また、地震の地図にはありませんが、若狭には天正大

地震の記録があります。一五八六年一月に起きたこの地震は日本海の若狭湾から太平洋側の三河湾にまで及び城が複数倒壊するほどの大きなもので

した。今後もないと誰が言えるでしょうか。

アート・アド分会 N

原子力発電所マップ



各電力会社公表資料等を参考に編集部作成
※東日本大震災前の時点で廃炉決定済だった東海発電所と浜岡発電所1・2号機も地図に含めている。
※東海第二原発(茨城県東海村)は、再稼働の前提となる新規制基準に適合するとして審査書案を原子力規制委員会が7月4日に了承。正式ではないが、「実質的な合格」の段階。

nippon.com

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！